

野菜作りと大学両立

土日合わせ週3日作業に専念

【静岡支局】「農業が好きだからやっている。気負っていたらできない。自分のペースでやっているからこそできること」と話すのは、静岡市葵区新聞で露地野菜70坪を栽培している松岡遥斗さん(20)。農業を学ぶ大学2年生で、高校在学中から野菜を栽培し、販売も行っている。現在は静岡から大学のある神奈川県厚木市まで通う傍ら、夏はナスやピーマン、トウモロコシ、冬はホウレンソウやサツマイモ、ハクサイなどを作付ける。

神奈川県厚木市まで通学

松岡 遥斗さん 静岡市

大学の授業を取らない日を週に1日つくり、土日と合わせて週3日、農業に専念する。高校生の時よりもさらに農業に力を入れるため、面積を増やす一方、栽培する品目・品種を絞り込む。販路についても自ら売り込み、地域のスーパーや直売所に出荷する。

また、生育状況などを記録用として撮影。写真や動画を動画投稿サイト「ユーチューブ」や写真共有アプリ「インスタグラム」に投稿している。交流サイト(SNS)に投稿することで、ありのままの畑の状態をリアルタイムで伝えたい。投稿を見た農家から、アドバイスを機械譲渡について連絡がくることもあるという。「使っている農機



松岡さんのサツマイモを紹介する高野さん

SNSに生育状況投稿 助言や機械譲渡の話も



ハクサイの苗を定植する松岡さん

現在、友人と旅行するなど大学生活も楽しむ松岡さん。大学卒業後も何らかの形で農業を続けたいと考えており、専業や兼業などさまざまな方向性を視野に入れている。

松岡さんは「大学在学中も少しずつ売り上げを伸ばしていきたい。卒業後も、地元である静岡市で農業をやっていきたい」と意欲を見せる。

(奥田)

卒業後は 専業も視野

出荷先の一つである「青物市場しんま路Tabl e」店長の高野洋介さん(46)は「農業を始めた頃から野菜を置いている。松岡さんを応援し『指名買い』するお客さんも多い。学生だが品質は高く、お客さんの信用も得ている。これからは静岡で土を触り、畑を耕す農業を絶やさず続けてほしい」と期待する。